

大学名 東北大学附属図書館

表題 漱石の肉筆を後世へ！クラウドファンディングによる「漱石文庫」デジタル化の推進

特色ある取組

東北大学附属図書館が所蔵する貴重なコレクション「漱石文庫」「狩野文庫」について、クラウドファンディング等を活用した資料のデジタル化により、広く一般への公開を推進している。

【漱石文庫とは】

- 文豪・夏目漱石の旧蔵書約3,000冊及び自筆資料から成るコレクション。
- 漱石自身の肉筆による手帳や日記、ノート、創作メモ、手紙等の自筆資料に加えて、旧蔵書にも漱石自身の書き込み等が多数見られ、漱石の創作過程が残る第一級の資料。

【これまでの取組】

- 漱石没後100周年、漱石生誕150周年を記念し、仙台文学館等との協力により、企画展を開催。市民の関心と高い評価を得た。(2016年、2017年)
- 資料の劣化が年々進行し、原本の公開が難しくなる状況から、最新の技術を用いたデジタル化とインターネットでの公開を実現するため、クラウドファンディングによる資金確保に挑戦。
- 実施にあたって、漱石文庫に関心を持つ多様なステークホルダーへの呼びかけや著名な作家等からの応援コメントの寄稿、全国紙やSNSでも取り上げられるなどの効果もあり、当初目標額の2倍以上の支援を得て成立(目標200万円→469万円達成)(2019年11月5日～12月26日)。
- クラウドファンディングの寄附金により、漱石の自筆資料等793点をデジタル化し、東北大学デジタルコレクションで公開(2020年12月)。旧蔵書のデジタル化も計画中。

【その他の取組】

- 国文学研究資料館「日本語の歴史的典籍の国際共同研究ネットワーク構築計画」事業へ参画し「古典の百科」「江戸学の宝庫」と称され世界的に評価の高い「狩野文庫」のデジタル化を実施。
- 国文研「新日本古典籍総合データベース」で公開を開始し、プレスリリースを実施(2020年9月)。

上記取組による成果・評価 など

- 最新技術による高精細デジタル画像の公開と画像データの二次利用の自由化により、一層の利活用の促進に加えて、本学が所蔵する唯一無二の貴重な資料の後世への継承と人文学研究のデジタル化・オープン化の推進に寄与。
- 「狩野文庫」のデジタル公開を記念した「狩野文庫デジタルアーカイブシンポジウム」をオンライン開催。市民、大学関係者、学生等300名以上が参加。ロバート キャンベル国文研館長による講演「日本古典と感染症」のアーカイブ動画を東北大学附属図書館YouTubeチャンネルで公開。オンラインシンポジウムの開催やアーカイブ動画の公開を通じて、研究活動への貢献のみならず広く社会全体にも高い関心を喚起(2020年12月)。

参考URL

- ・クラウドファンディング漱石文庫プロジェクトページ
<https://readyfor.jp/projects/soseki-library>
- ・東北大学デジタルコレクション
<http://www.library.tohoku.ac.jp/collection/rare/collection.php>
- ・狩野文庫デジタルアーカイブシンポジウム
<http://www.library.tohoku.ac.jp/news/2020/20201223.html>

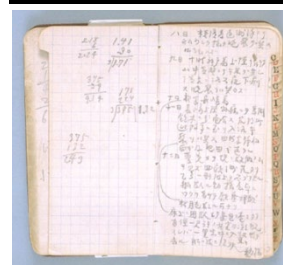


クラウドファンディング
漱石文庫プロジェクトページ



「狩野文庫デジタルアーカイブシンポジウム」でのロバート キャンベル館長による講演

取材対応者 (予定)



漱石の英国
留学時の
日記である
「渡航日記」



大隅附属図書館長